親子で学ぶ防災学習支援　浜が培った暮らしの知恵を、親と子で非常時の備えに生かす豊かな学び

テント設営を真剣な眼差しで学ぶ子どもたち

写真上／チームで声をかけ合いながら火起こし　写真中／ふりかけの材料をミニすりこぎで配合　写真下／「おいしい！おかわり！そんな声が飛び交ったランチタイム

そして 今

浜わらすでは昨年11月、子ども を対象にローブワークやシェルターの確保、水の確保など非常時に生き延びるためのサバイバル術を学べるサバイバルデイキャンプを実施しました。今後も地域の人々と連携を密にしながら、より多くの人に震災伝承・防災減災のプログラムを提供できるよう取り組んでいくそうです。

また、好評の自然体験活動も地元のみならず、他地域からの子どもたちの受入れにも注力。山の子どもたちが海へ、海の子どもたちが雪山へといった、内陸部と沿岸部の子どもたちとの交流プログラムなども検討中だそうです。

特定非営利活動法人 浜わらす
https://hamawarasu.org/

福島県相双エリアの再生発信支援　真の復興を果たす日を願い、故郷再生を目指す相双の今に触れる

「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」のPRツール

写真上／「真野川鮭ふ化場」で採卵作業を見学　写真右下／移動式水素ステーション　ナミエナジー　写真左下／東日本大震災・原子力災害伝承館の展示に見入る一般参加者

そして 今

このツアーでは、参加者全員に「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま」の広報隊に登録してもらい、訪問先で感じた福島の今をたくさんの人々に伝えていくよう依頼しました。広報隊は現在、4万4千人を超える登録があり、全国で共感・応援の輪が大きく広がっています。バッジやのぼりなどのPRツールを活用し、福島の今を発信しています。

柳沼さんは、「福島県に心を寄せる人々の支援によって、復興は着実に前進しています。未曾有の複合災害という逆境を乗り越えていくため、皆さんとの絆をさらに深めながら、全力で挑戦を続けていきます」と決意を表明してくれました。

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま
https://jitsugensuru-fukushima.jp/

石巻市追波湾の資源活用支援　震災の教訓を胸に、北上川流域の恵みと新たな交流の息吹を体感

北上川テラスと間倉のテラス席

写真上／参加者に震災前の原況地区を説明するリチャードさん　写真中／毛糸でヨシの束を編み込むむこつを中村准教授が指導　写真下／追波湾を一望する復興地に宿泊棟が並びなっている敷地内を散策

そして 今

「追波湾テラス～考える葦～」では、ドッグランを活用したワンちゃんイベントや団体向け全棟貸し切り、ワーケーション週間滞在プランなどを企画中です。また、昨年12月、りあすの森と連携してヨシ原の保全活動に取り組む建設会社が宿泊施設からほど近くにカフェ2店をオープン。国道398号線沿いの「北上川テラス七間倉」と、その背後にある頭高44㍍の高台に建つ「青島テラスcafe44」は、どちらも築100年以上の板倉を移築してリフォームした店舗。壁紙や電球装飾などに地元のヨシ材を活用した落ち着いた雰囲気の中、目の前に広がる太平洋と北上川の景観とともに飲食を楽しめます。

追波湾テラス～考える葦～
https://oppawan-terrace.jp/

次世代の被災地視察教育支援

被災地の今を感じて取材に取り組んだ中学生記者たちの思いを綴った新聞づくり

仙台市立八乙女中学校・多賀城市立東豊中学校・名取市立閖上小中学校の生徒26人が復興の現場で取材を行い、記者経験のあるプロジェクトメンバーによる指導の下、記事執筆に挑戦しました。取材先で実際に感じたことや学んだことを記事にまとめ、河北新報別紙面「震災伝承新聞」として2月11日に発行。その後、各校で発表会も開催し、活動の振り返りを行っています。

石巻市と女川町で取材した東豊中の中学生記者

亘理町で実施した八乙女中の中学生記者による取材

浜脇中での震災伝承新聞を教材にした授業の模様

東松島市で取材を行った閖上小中の中学生記者

震災伝承新聞は、東北の震災遺構や伝承施設、宮城県外の災害を研究を行う大学や団体、東京都・池袋「宮城ふるさとプラザ」、宮城県大阪事務所などで配布。宮城県内186の中学校にも届けた他、愛媛県の今治市立菊間中学校、兵庫県の西宮市立浜脇中学校で教材として使用してもらいました。

出典：2023年3月14日付 神戸新聞

出典：2023年3月11日付 愛媛新聞

●生徒たちの取材に同行して

仙台市立八乙女中学校　関 孝一 先生

東日本大震災の記憶がなくしかも亘理町荒浜にあまりなじみのない生徒たちでしたが、今回のプロジェクトを通して、震災の記憶を伝えていくことの大切さを深く心に刻んだようです。現地で被災者に直接会って話を聞くことで、震災当時は何が大変だったのか、どんな思いでこれまで過ごしてきたのかなどを肌で感じることができました。学校で勉強するだけでは得られない、内での発表内容からは、震災を通じてこうという強い思いが伝わってきました。今回のプロジェクトに参加して本当に良かったと思っています。

●震災伝承新聞を読んで

西宮市立浜脇中学校1年　藤野 乃愛 さん

同世代の中学生が被災地を訪問し、震災遺構を目の当たりにして取材した内容の記事を読み、胸がしめつけられました。津波・火災の恐ろしさ、とっさの判断、行動が命を救うことなどを知ることが第一歩。だから語り継ぐことが大切だと思いました。…被災された方々の気持ちに寄り添いながら、

女川町で行方不明の妻の海中捜索を続ける高松さんの言葉「いつもの何でもない会話。それが当たり前ではないことを、失ってから気付く。当たり前を大切にしてほしい」を受け止めて、日々過ごしていきます。多くの教訓から学び、防災意識・行動が展開・発展していくことが大切なことだと思いました。

西宮市立浜脇中学校2年　松岡 文奈 さん

阪神・淡路大震災で被災した西宮。学ぶ機会は多くありながら、恐ろしい事実に目を背け続けていた自分がいます。しかし、このプロジェクトで同世代の人たちが、震災当時、1歳半だったので記憶がなく、おととし母から父が単身赴任先の気仙沼市で被災し、1カ月以上帰ってこなかったことと、車が津波で流されたことを初めて聞き、驚きました。絶対忘れてはいけない3月11日を新しい世代に語り継いでいかなければならないと思います。

富谷市立東向陽台中学校2年　遠藤 梨々子 さん

震災伝承新聞を読んで、東松島市立大曲小5年当時の被災体験を語り継ごうと強い思いで語り部活動をしている方に感銘を受けました。震災を体験していなくても学ぶことで防災に生かすことの大切さを知りました。そして、災害発生時には想定外という言葉を安易に使わず、自分の身は自分で守り、次に周りの人を守れるようになりたいです。

また、東日本大震災を体験していない世代が震災について学ぶ機会を増やし記憶をつないでいきたいです。今ある日常を大切にし、今自分に何ができるか考え、社会に貢献できたらと思います。

東北学院大学4年　村上 知優 さん

被災の程度により、どうしても震災への関心の度合いは拭えない温度差があると私は考えています。震災がもたらした被災の事実は記憶に残り続けると思います。しかし震災発生から月日が過ぎて風化が進み、後世に教訓をつなげたいと考える人がどのくらいいるか分かりません。そんな中、中学生の皆さんの行動を知り、とても刺激を受け、この先プラスの影響を必ず与えると思いました。私の実家も被災し家が流されてしまいましたが、中学生の皆さんがもっと知ったり、伝えていきたいと感じてくれたことは純粋に嬉しく、同時にとても心強く感じました。

中学生たちが作り上げた「震災伝承新聞」はこちらからご覧いただけます。
⇩

※所属・学年は2023年3月時点

今できることプロジェクト

2022-2023

再生と伝承

総集編

思いを重ねて、ともに歩む道のり。

今できることプロジェクトは「再生と伝承」を掲げ
被災地域の活性化に尽力する人々や団体にフォーカスし、
現地での体験を通して学ぶ取り組みを実践してきました。
震災発生から12年の歳月が流れた今だからこそ、
語り継ぐべき記憶と教訓の継承を考え、
次世代へつなぐ共有の場づくりを進めています。
2022年度も、4つのテーマでプログラムを実施。
河北新報の読者、賛同企業の方々、たくさんの一般参加者とともに
得られた成果の数々をこの紙面で報告します。

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/　河北　今できること　検索

facebookページもあります。

企画・制作
河北新報社
営業局（今できることプロジェクト事務局）

明治安田生命
三菱重工機械システム
みちのく企業グループ
弁護士法人 平松剛法律事務所 Hiramatsu Go Law Office
一般社団法人 日本損害保険協会 SONPO
TOSHIN 東伸環境株式会社
RICOH imagine. change. リコージャパン株式会社
一般社団法人 宮城県建設業協会
三井不動産 MITSUI FUDOSAN
FUJISAKI
あしたを、つなぐ ― 野村不動産グループ 野村不動産
NISHIKIYA KITCHEN
Rethink PROJECT
車検・点検はセーフティーステッカー運動実施中の会員工場へ 一般社団法人 宮城県自動車整備振興会
人を、想う力。街を、想う力。 三菱地所グループ
FUJIFILM 富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社
東日本油化工業 株式会社
日本製紙株式会社
日本製紙クレシア株式会社

◎後援／宮城県、福島県、仙台市、石巻市、気仙沼市、多賀城市、名取市、東松島市、南相馬市、亘理町、女川町、浪江町、双葉町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

「今できることプロジェクト2022-2023」は趣旨に賛同いただいた37の企業・団体のご支援により活動を展開いたしました。

大和証券 Daiwa Securities
JTB 感動のそばに、いつも。
KRT 光輝ビルテクノス株式会社
よろこびがつなぐ世界へ KIRIN
岩手日日新聞社
IHI Realize your dreams
DIC Color & Comfort DICグラフィックス株式会社
―信用と創造― 住友不動産
乾杯を もっとおいしく。 SAPPORO
ケーズデンキグループ デンコードー
NTT DATA 株式会社NTTデータ東北
Asahi
伝承千年の宿 佐勘
一般社団法人 生命保険協会 宮城県協会
SUNTORY
劇団四季
ORIX オリックス 仙台支店
石巻市震災遺構 門脇小学校・大川小学校